

令和5年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標をもち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和5年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	41	66	45	40	3.9	12.4	6.7
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	44	56.6	52.3	47.4	44.0	52.5	10.8	2.8	14.3	11.2	7.5
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	42	89.0	94.7	102.7	100.6
	大阪市	—	101.3	107.7	137.9	102.2

令和5年度 梅南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

＜国語＞

「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均を上回ることができた。しかし、「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均を下回る結果となった。無解答率は全国平均の4.6％に対して、3.9％という結果であり、意欲的に調査に臨む姿勢を見ることができた。

＜数学＞

「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のどの領域に関しても全国平均を下回る結果となった。ただ、個別の問題で見ると箱ひげ図の箱に着目して理由を説明する問題に関しては、全国平均を4.5ポイント、大阪府の平均を9.9ポイント上回る結果となった。

＜英語＞

「聞くこと」と「読むこと」について、大阪府の平均正答率より約6％下回った。また、「書くこと」については大阪府の平均正答率より約4％下回った。ただし、正答数が15問以上の割合は、大阪府8.4％、全国7.3％に対して、9.5％で上回ることができた。

【今後に向けて】

＜国語＞

複数の情報を比較したり、関連づけたりして検討し、課題に取り組むことで、「情報の扱い方に関する事項」についての力の定着をはかっていく。また毎授業の課題や朝学習でのプリント学習を通して、語彙力の定着をはかっていく。さらに、古文の応用問題を数多く取り組んでいくことで、古典に前向きに取り組む姿勢を育てていく。

＜数学＞

4つの領域すべてにおいて、基礎的な力を向上させる必要がある。日々、小テストなどを通して基礎的な力を定着させ、あわせて発展的な問題にも取り組み、応用力も身につけていく。

＜英語＞

4技能すべてにおいて基礎の定着が必要である。そのためには単語力の向上が必要である。単語小テストを通して、単語力の向上に努める。また、演習問題を通して応用力の向上にも引き続き取り組む。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【成果と課題】

＜国語＞

漢字の書き問題や読み取り問題、また古文の問題では、正解率が大阪府平均を上回るものもあり、日々の取り組みの成果を発揮できた。一方手紙の書き方については大阪府平均を大きく下回る結果となった。また33問中11問は全員が解答しており、意欲的にテストに臨む姿勢を見ることができた。

＜社会＞

大阪府平均と比較して、思考判断表現に関しては平均を上回ったものの、それ以上に知識の分野では平均を下回る結果となった。また問題別に見たときに、平均値を大きく上回るものがあったものの、一定の語句を問う問題で平均を大きく下回るものがあった。単純な知識の定着において課題が見られた結果となった。

＜数学＞

平均点は大阪府と比較して、4.8ポイント下回る結果となった。大きく点差が開いた設問は無かったがほとんどの設問で府平均を下回っている。ただ、データの活用の領域の設問ではほとんど府平均を上回っている結果となった。また、無回答率は府平均を3.1ポイント上回っている。

＜理科＞

得点率は大阪府平均と比較すると、知識技能はマイナス3.5ポイント、思考判断表現はマイナス4.0ポイントという結果となった。領域別にみると生命の分野のみわずかに府平均を上回っているが、その他の領域では下回る結果となった。

＜英語＞

「読むこと」の領域において大阪府平均を上回ることができた。ただし、問題形式別平均点の記述式において大阪府平均を下回る結果であった。

【今後に向けて】

＜国語＞

3年生は残り3か月ほどしか中学校生活が残っていないので、その中で、各自の進路実現に向けて、不得意分野の克服をめざし、個々に応じた学習目標を立てて、取り組ませていく。また、古典、文法、読解問題など、習熟度に応じた難易度の異なる問題のうち、個々に合った問題に取り組ませて、学力の定着を図っていく。

＜社会＞

残りの期間においては「知識の定着」を主な課題として扱っていく。社会科においては覚えていなければ正答することが不可能な問題もあることが事実であるため、全体の知識の定着を図っていききたい。

＜数学＞

ほとんどの設問で全体的に府平均を下回っていることから、まずは各領域の基礎を定着させる必要がある。また、無回答率が府平均を上回っていることから、粘り強く考えることを意識させる必要がある。

＜理科＞

知識を問う問題の正答率が比較的高いものの、領域によってはまだまだ定着していない生徒も多くみられるので、まず全体的に知識の定着を図っていく。また、短答や記述の正答率を上げるため、発展的な問題演習も個々に応じて取り組んでいく。

＜英語＞

単語テストや文法の基礎の復習に取り組みながら、発展的な文章問題にも取り組んでいく。また、記述式のライティングが苦手な生徒が多いため、ライティングの練習問題を増やしていきたい。

○大阪市英語力調査(GTEC)

【成果と課題】

リーディング分野では、短い簡単な文章をいくつかの「意味のまとまり」ごとに区切りながら英文を読み進める力については、リスニング分野では、なじみのある表現から必要な情報を聞き取る力はある程度ついている。ライティング分野では、1つのテーマで3文程度書く力についてはついてきている。スピーキング分野では、基本的な語や言い回しを使って、日常のやりとりにおいて単純に応答する力についてはついてきている。

【今後に向けて】

4技能の向上ができるような教材等を作成していく。また、GTECの問題形式や問題の難易度に合わせた問題演習を授業内でも取り組んでいく。